

# \*遊空間\*



〜6〜

ここ数年、夏の暑さが長くなってきている気がする。今年も子どもたちにとっては楽しいな夏休みが始まる。白神自然学校一ツ森校では毎年、夏休み・冬休みの自然体験塾を開催し、全国から小学校2年生から中学生・高校生が、白神山地の山・川・海の自然体験を楽しみにやってくる。

## 白神自然学校の夏休み自然塾

エルの動きを見ていて、長いくちばしでカエルを餌として食べている。こんな光景が日常的な自然の営みとして繰り返されている。一週間程のプログラムは、白神自然学校遊々の森では林業体験が行われる。太い丸太を手のこで伐倒して、枝落とし体験をする。小さいながらも、

# 生きたSDGs教育

特に、都会ではなかなかお目に掛かれない、クワガタ虫、カブト虫が超人気である。この時期はセミもうるさい。トンボや、とても嫌なアブも飛んでいる。この一ツ森地

区は山が近く、田んぼが多い。子どもたちは虫かごと網を持ち、近くの田んぼのあぜ道に走り込む。ドジョウがいたと叫ぶ。小さいながらも、

木を一本伐倒する事のない子どもたちは、「どすーん」と倒れる音に満足感と達成感を感じるみた

張って3本以上植えようねと、指導員から促される。額に汗をかき一生懸命植えながら、今の温暖化の話などする。

人も地球環境も豊かになるには、森の木を伐って苗木を植えて育てていくことで森を循環させることが大事だと話す。この現場での体感の中で話すからこそ浸透すると実感する。知識偏重の机上の勉強ではなかなか理解できない子どもも納得する。夜、ふりかえり用紙に、今日1日の出来事、感想を記入しているのを見ると、見事に記憶に刻まれている事を実感する。



ブナの森の説明を受ける植林事業参加者たち



木を伐倒している子ども

(NPO法人白神自然学校一ツ森) 森校長 永井雄人